

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
E111B012	保育内容総論(Introduction of Contents in Early Childhood Care and Education)																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 永田 誠 E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559												
授業の概要	現代において、幼児教育・保育は質の向上と幼児教育・保育者の専門性の確立・深化に大きな期待が寄せられている。そのため、幼児教育・保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し、実践するための必要な知識・技能を身に付けることが求められる。本講義では、幼児教育・保育の全体構造の中で保育内容をとらえ、具体的な保育内容の構成や、保育の展開、評価について学習する。また、多様な保育ニーズへの対応や幼稚園・保育所・地域・小学校との連携、保育者の資質向上等、保育全体にわたる現代的課題についても学習を進めるとともに、遊びや生活を通じた総合的な指導法を学ぶことを要目的とする。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	幼児教育・保育における保育内容全体の構造と指導法について理解する。																	
目標2	幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成の必要性と方法を理解する。																	
目標3	幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。																	
目標4	幼児教育者としての自己の実践に対する省察と改善に意欲的に取り組むことができる。																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	幼児教育・保育の基本的理解																	
2	保育内容の構成と内容(1)保育内容の構成																	
3	保育内容の構成と内容(2)保育内容の変遷																	
4	保育内容の構成と内容(3)5領域のねらいと内容																	
5	保育内容の構成と内容(4)教育課程編成の意義とカリキュラム・マネジメント																	
6	幼児の発達と遊びの様子(1)保育事例から見る子どもの学びと教師の関わり 自由遊び(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
7	幼児の発達と遊びの様子(2)保育事例から見る子どもの学びと教師の関わり 環境と関わる遊び(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
8	幼児の発達と遊びの様子(3)保育事例から見る子どもの学びと教師の関わり 協同的な遊び(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
9	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(1)3歳児の保育を事例に 幼児の育ちと学びの理解と検討(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
10	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(2)3歳児の保育を事例に (グループ発表)幼児の育ちと学びの姿を踏まえた保育の評価・改善																	
11	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(3)4歳児の保育を事例に 幼児の育ちと学びの理解と検討(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
12	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(4)4歳児の保育を事例に (グループ発表)幼児の育ちと学びの姿を踏まえた保育の評価・改善																	
13	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(5)5歳児の保育を事例に 幼児の育ちと学びの理解と検討(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
14	幼児の発達を踏まえた保育課程・内容の編成(6)5歳児の保育を事例に (グループ発表)幼児の育ちと学びの姿を踏まえた保育の評価・改善																	
15	多様化する保育ニーズと保育者の専門性の向上																	
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 エ:応用志向 オ:知識の活用・創造	・授業内では、学生の主体的な参加を図るため、学生に意見を述べてもらう場面を頻りに設ける。 ・保育の実践事例をもとに、保育記録を作成し、幼児の遊びをもとにした「学び」の姿について報告・討議する。															工 夫 そ の 他 の		
時間外学修の内容と時間の目安	準備	対応する箇所の教科書の内容の精読(15h)																
	学修	保育記録の作成ならびに考察(15h)																
	事後	講義内容の振り返りによる知識の定着(15h)																
	学修																	
教科書	小笠原圭・植田明編著『保育の計画と方法』(保育・教育ネオシリーズ3)同文書院、2018年																	
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	保育記録の作成と考察	30%																
	保育実践事例に関する考察	30%																
	授業課題レポート	30%																
	授業中の発表・グループ活動への取り組み状況等	10%																
注意事項	本講義は、一部でグループワークなどの演習形式にて進めるため、受講生の積極的な授業参加を望む。 授業・課題への取り組み状況などは、成績評価に厳密に反映する。																	
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。																	
リンク	URL																	